

目次 || CONTENTS

02 住人十色
藤本 博明さん

04 特集 || 町長と主任級職員との
意見交換会 レポート

10 うちこ往来
天神小学校特別授業 / 内子町文化協会芸能
発表会 / 町並みウォーキング / 内子町商工
会女性部交流会 ほか

12 まちのニュース
さつき展示会 / 内子町消防団表彰 / 21年
度内子町自治会連絡会 / 喜多郡保育協議会
防犯対策交流会 ほか

14 みんなのひろば
リレーエッセイ / はじめてのバースデー /
人☆キラリ / まちの声 ほか

18 HELLO!!!
マルコ・シュルツェ

19 ゆうていあ Vol.99
21年度青少年海外派遣事業 団員募集

20 議会だより
第29号

22 お知らせ
旧小田深山小学校の修繕整備にご協力くだ
さい / 元気わくわく川まつり / 第3回内子
町カラオケ発表会 / 新しい後期高齢者医療
保険証を郵送します / 町内2施設の指定管
理者募集 ほか

24 内子ものがたり
第3話 中川八郎墓碑

住人 十色

内子の山々に響け スイスの伝統楽器アルプホルンを制作 藤本 博明さん(65) || 内子6 ||



1ノミを使い、手作業で筒の内側を削っていく藤本さん(手前) 2ラッパ部分の内側を荒削りした状態。この後表面を滑らかに整える 3一緒に作業する石田一重さん。彫りすぎないように、こまめに定規を当てて厚みを確認する 4黙々と手を動かす和田親人さん 5内子高校吹奏楽部の生徒たちは、内子座や地域のまつりなどでもアルプホルンの演奏を披露している

長く伸びた木製の筒の先がラッパ状に広がる、独特の形をした楽器「アルプホルン」。かつて、スイスなどのアルプと呼ばれる高山牧草地で牧童たちに使われていた楽器です。愛媛県内でも珍しいこの楽器が、内子高校吹奏楽部に4本あります。制作したのは、元美術教諭の藤本博明さんです。

藤本さんが「アルプホルンを作ってみよう」と思い立ったのは、15年ほど前。ある林業雑誌の記事がきっかけでした。そこには一人の林業試験場の職員が、捨てられてしまう根曲がりの間伐材を使って独学でアルプホルン作りに取り組んだようすが掲載

されていました。その後、城川町(西予市)で初めて実物を見学。「これなら作れるかもしれない」と、その場で寸法を測って帰り、試行錯誤を繰り返しながら約1年かけて1本のアルプホルンを完成させました。

機会があつて一度プロの奏者に演奏してみてもらったところ、「10本作ったら上手になるよ」と言われたという藤本さん。これまでに5本を作り上げ、現在6本目を制作中です。藤本さんが作るアルプホルンの長さは約3尺6寸。材木はベイツガを使用します。材木に型を描き、電気丸ノコなどで大まかに外形を削り取った後、内側をノミで彫ります。残す厚みは1センチ。特にラッパ部分はカーブが難しく、彫りすぎて厚みが薄くなってしまうような、慎重に作業しなければなりません。すべて彫り終えたら、2本の木材を張り合わせて外側の形を整え、吹き口をつけて完成となります。

手製のアルプホルンを演奏する内子高校吹奏楽部の生徒たちは、この夏、全国高等学校総合文化祭に出場します。藤本さんは今も楽器の修理などを行いながら、その活躍を応援しています。また現在は、興味がある人に作り方を指導しながら、一緒にアルプホルンを制作しています。「完成したら、みんなで内子の山にアルプホルンの音を響かせてみたい」。その願いが叶う日も遠くはなさそうです。



町内無線放送が聞き取れなかった場合はお電話ください。
通話料無料のフリーダイヤル
☎(0120)44-2130